

# 「白山比咩神社」について

No.383

本納駅より東へ四キロ程行った北塚に、あまり聞き慣れない「白山比咩神社」が鎮座している。祭神は菊理媛命で、創立は慶長三年（一五九八）とされ、加賀国白山比咩神社（石川県石川郡）から勧請されている。



▲比咩神社の神額

県内の神社を網羅している「千葉県神社名鑑」に依ると、「比咩」と付く神社名は「こと蘇我比咩神社（千葉市）と高津比咩神社（八千代市）の三社のみである。蘇我比咩神社と高津比咩神社の諸祭神の中には菊理媛命は見あたらない。

菊理媛命（神）は様々な名で表されている。例えば、菊理比賣命、菊理姫命、菊理比咩命、白山姫命、白山比咩命（神）などがあるが皆同一神である。しかし、姫媛、比売に相当する語は比咩と表現され、特殊な字を当てている。咩（咩と同字）は羊が鳴く声を表

す中国語から由来している。この比咩という字は「広辞苑」や「大辞林」には記載が無く、神名や神社名のみにはしか使われていないようだ。

白山は岐阜県と石川県にまたがる火山で、古くから山岳霊場の山とされている。白山は御前ヶ峰、大汝、剣ヶ峰のいわゆる三ノ峰の総称である。富士山と立山とともに日本三名山の一つで、春夏秋冬問わず常に白雪を冠していることから白山と呼ばれる。

県内の白山神社は全部で三十一社もある。菊理媛命が祀られている白山神社は八社、白山姫命が六社、その他の祭神は七社となっている。

本殿木鼻に振り向き獅子一対が見られる。これは成田山新勝寺の釈迦堂（旧本堂・安政五年）の扉彫刻「二十四考の図」を手掛けた島村俊表と嫡男俊豊（萬吉）の親子共々の作である。左側の獅子が俊表で、右側は俊豊の作でありそれらは非常によく似ている。

向拝柱は几帳面取りの角柱で地紋彫が見られ、文様は紗綾形紋である。



▲本殿の全景

俊表は江戸島村流の八代目（俊正も八代目を襲名）を受け継いでおり、作品はいすみ市、勝浦市、市原市、東京都、埼玉県などに見られる。俊表は文久三年（一八六三）勝浦の上本町で病死し、享年五十五であった。

俊豊の作品は伊弉子神社（渋谷）、八幡神社神輿（上永吉）、皇産霊神社（九十九里町）、いすみ市、東京都、埼玉県などに見られる。俊豊は島村九代目を継承し、明治十年（一八七七）に没している。

茂原市文化財審議会委員

片岡 栄

※広報もばら令和4年9月1日号に掲載した「小松光春」について、引き続き情報がありましたらお知らせください。

問合せ

生涯学習課（9階）

TEL (20) 15559 FAX (20) 16007

## 文芸コーナー

知らないのだ、今の子たちは

石塚 英希

子どもの頃、よく歩きに来た、公園。

山を切り開いて、山に囲まれた、公園。

そこにある山道を、よく歩きに来た。

あるときは、一人で。

あるときは、三人で。

あるときは、好きな人をつれて。

大人になって、歩きに来た。

もう、歩けなかった。

右も左も、ロープで縛られて、入れなかった。

知らないのだ、今の子たちは。

この道歩く喜びも、わくわくも。

落ちそうになるときも、ひやひやも。

ころびそうなあの子の手をとって進む

ときめきも、みずみずしさも。

知らないのだ、今の子たちは。

◎選評 齋藤正敏

子供の頃の山歩き体験は良く伝わります。作品としての掘り下げはもう少し欲しいところです。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。

●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※詩の原稿送付先（直接選者）へ 〒297-0032 茂原市東茂原7-55 齋藤正敏宛。

詩は随時募集しており、どなたでも応募可能です。たくさんのご応募お待ちしております。

「広報もばらの詩」と朱書きしてください。原稿は30行以内をお願いします。